

教育目標 進んで学ぶ子 なかよくする子 たくましい子



学校だより

新潟市立中之口東小学校 2023. 4. 27
第363号 児童数109名
ホームページ <http://www.kiranico>



創立 150 周年 変わらぬ願い「子どもたちの幸せな未来のために」

校長 林 なおみ

4月25日に、児童会主催の「1年生を迎える会」がありました。その中で、6年生が「学校紹介」として、これから始まる令和5年度の中之口東小学校の1年間をスライドで紹介しました。入学式、運動会、文化祭など、恒例の行事に、150周年記念式典が加えてありました。代表が、「11月に150周年の式があります。その中で、各学年が劇や音読で、生活科や総合の発表をします」と紹介しました。6年生が自分たちで1年間の学校生活の見通しをもち、紹介する内容や文章を協力して作り上げたことに、頼もしさを感じました。

東小は 近郷における学問の府であった

東小学校区は昔から教育に熱心な地区として知られ、明治五年学制の頒布以前、すでに高野宮の新光寺などで塾（寺子屋）を開設し、子どもたちの学ぶ場を作っていたそうです。中之口東小学校は、明治6年2月、「公立高野宮校」として、新光寺の建物を借りて開学しました。明治20年に「公立小吉校」へ改称後は、小学校卒業後の生徒を対象として補習科を置き、旧制中学校程度の課程を実施していました。近隣の村々だけでなく、三条や大野からも笈（^{おい}本を入れる、竹で編んで作った箱）を背負い、寄宿自炊して学びにきていたといいます。明治28年に高等小学校を特設し小吉高等小学校と称し、明治41年には小吉尋常小学校と小吉高等小学校とを併せ、小吉尋常高等小学校と改称しました。明治維新の騒然とした時代に、この地域の先人は、「子どものために」「子どもたちの幸せな未来のために」との願いのもと、一貫して学校教育の充実に情熱を傾けてきたのです。

願いは受け継がれ 思いが培われた

今、中之口東小学校は、充実した教育の実現のため、多くの保護者、地域の方々の支えと応援をいただいています。150年の時を経て、学校の名称も校舎も変わりました。しかし、創立以来変わらず伝統として育まれてきたもの、それはこの地域の学校教育に対する理解と、子どもたちの未来に対する願いです。そして、「1年生を迎える会」で「150周年の式があります」と語った6年生たちの姿には、中之口東小学校の教育に培われた、自分たちの学校を誇る思いが表れていました。

【参考】『改訂 中之口村史』1987年発行



【1年生を迎える会】一年生の自己紹介で、一人ずつ、名前と「好きなもの」を言いました。